

地域おこし協力隊 活動記 Vol.122

光陰矢の如し、とはよくいったもので、今年ももう4月になりました。あれほど悩まされた雪もあっという間に消え、弘前公園の桜が開花したと思ったら、春を告げるフクジュソウは、その可憐な姿を隠してしまいました。文字どおり矢が飛ぶように月日が流れていきます。とくに相馬では冬から春、そして夏が始まるまでの時間が早いように感じます。

時間の進み方はどこでも同じじゃないか、と思うかもしれませんが、物理的にいうと時間の流れは必ずしも一定ではありません。重力の強いところでは時間の進み方が遅くなるというのが物理学の法則です。同じ地球上でも、たとえばタワーマンシヨンの高層階は低層階に比べ重力の影響が減るので時間が早く進むそうです。もっとも、その差は極めて微小で何かに影響するようなものではありません。ただ、宇宙空間を周る人工衛星は定期的に地上との時差を修正しているそうです。そうしないと、GPS等で誤差が生じてしまうからです。相馬の春を早く感じるのは、市街地よりやや標高が高いからでしょうか？

それは冗談ですが、わたし（加賀新一郎隊員）が相馬で過ごした3年間は、これまでの人生で最も早い3年間でした。それだけ密度が濃かったのならよかったです。



のですが、地域おこし協力隊としてもつと何かできたのではないかと、思うこともあります。それでも、相馬で取り組んだすべてのこと（うまくいったこともいかなかったことも含め）、かかわったすべての人たちのことが、わたしの宝になったのは間違いありません。

この4月で相馬地区地域おこし協力隊を卒業します。住居の関係で住まいは相馬を離れますが、これからも相馬にかかわっていききたいと思えます。退任したら



さる3月3日、沢田神明宮で沢田ろうそくまつりが行われました。今年も、JA相馬村青年部のみなさんをはじめ、多くの方々にご協力いただきまして、本当にありがとうございました。実行委員会のひとりとして、厚く御礼申し上げます。

途絶えてしまう一過性のイベント等だけでなく、継続的に地域とかかわっていく仕組みをつくりたい、というのが着任当時から想いでした。この3年間は、ある意味、そのための土台作りといえるかもしれません。宝といったのは、そういう意味も多分に含んでいます。『りんごの森』への寄稿は今回で最後となりますが、宝である土台の上に、相馬の未来を築いていく作業を今後も続けていく所存です。

最後に、かかわってくださいましたみなさん、遠くから見守ってくださいましたみなさんに厚く御礼を申し上げます。そして、引き続き今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

